

～高崎市地震防災マップ～
地域の危険度マップ
吉井地区
平成22年2月 高崎市

基本的な考え方

「地域の危険度マップ」は、以下の考え方に基いて作成しています。

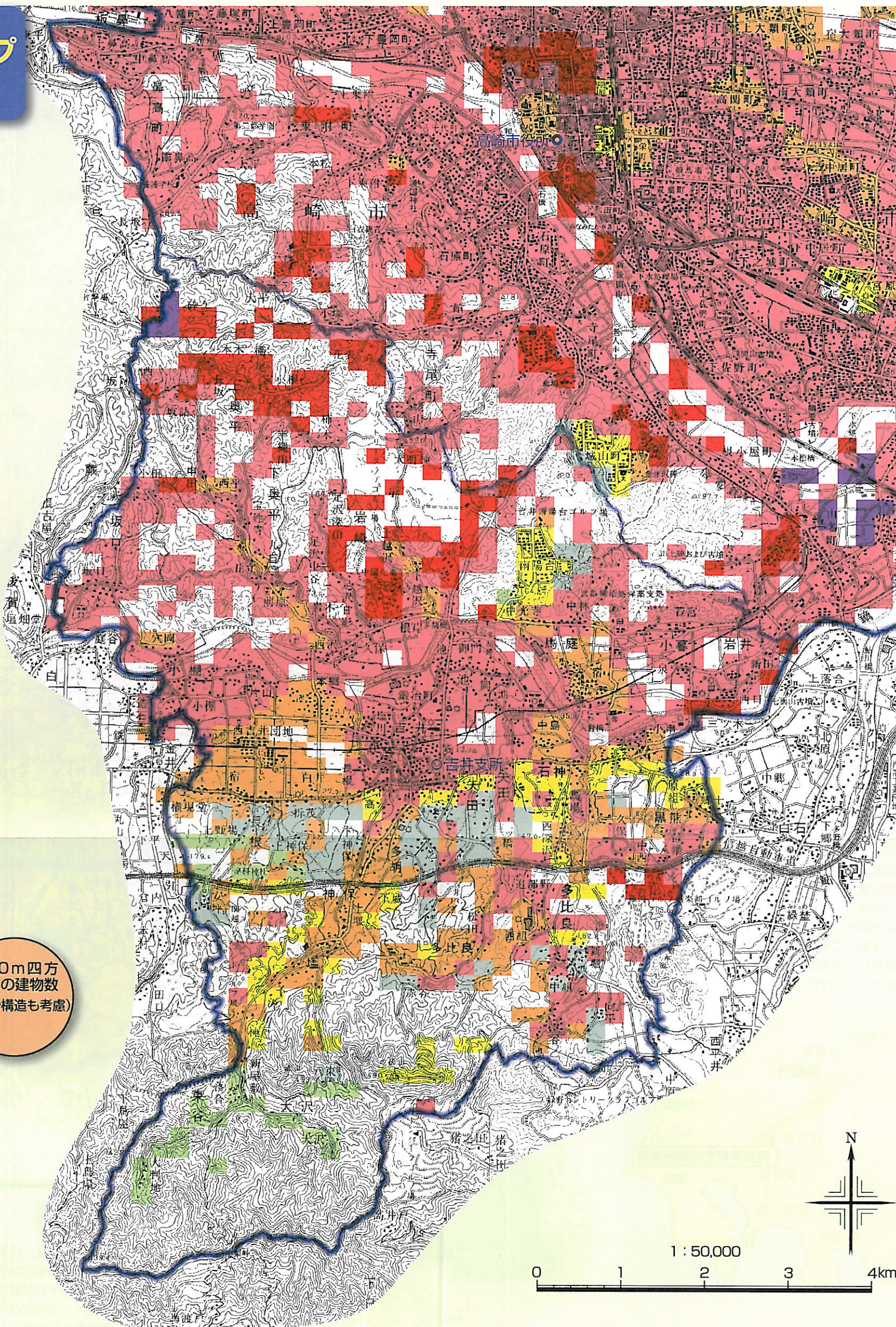
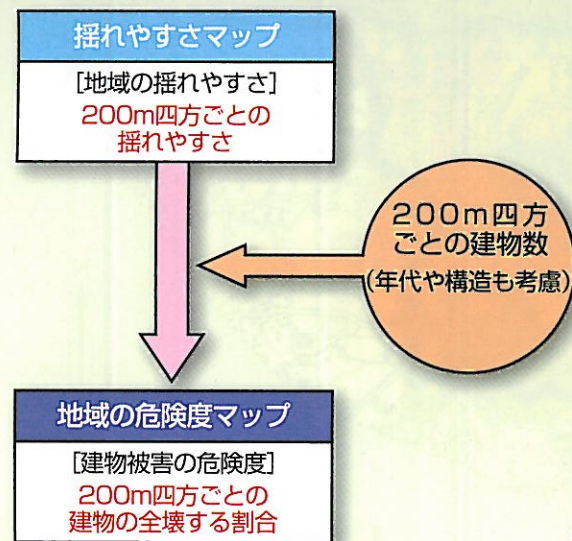
- 構造（木造／非木造）、建築年次を考慮して建物被害を計算
- 計算のための地区単位は200m四方ごと（建物の構造・建築年次の構成比は町字ごとの値を使用）
- 計算された建物全壊率により建物被害危険度を7段階で評価して表示

この地震防災マップは、内閣府「地震防災マップ作成技術資料」（平成17年3月発行）で示されている方法に従って作成されています。

地域の危険度マップとは

地震が発生すると様々な被害が発生します。その中でも地震の揺れによって建物が被害を受けると、住居が失われるだけでなく、多くの人命が失われることになります。このため、「地域の危険度マップ」では地震によって全壊する建物の割合を建物被害危険度として表示しています。

建物被害危険度は、地震のときに受ける地域の揺れが大きいほど、また、建築年代の古い建物が多いほど高くなります。「揺れやすさマップ」の震度分布と地域の建物の構造・建築年次分布（町字ごとに集計した値）から、阪神・淡路大震災などの最近の地震時の被害実態をもとに評価を行っています。



住まいの耐震性を確保しましょう

地震による死亡やケガの原因は…

阪神・淡路大震災での死者のうち、約8割は地震直後の家具、建物の倒壊などによる圧死といわれています。

住まいの耐震性は大丈夫？

建物の耐震性を把握するために、耐震診断を行いましょう。耐震診断は、手軽にできる簡易診断※から専門家に依頼して実施する精密診断などがあります。

また、建物の耐震性は、新耐震設計基準（昭和56年施行）によって大きく変わりました。それ以前の建築物は耐震性を確認しましょう。

住宅の耐震性を確保するには…

耐震診断の結果をもとに、耐震改修や建て替えなどを実施します。

木造住宅の耐震化の平均的な費用は約160万円（財団法人建設経済研究所推計）といわれていますが、実際の施工費用は、工事の内容によっても異なるので、信頼できる専門家に相談下さい。

凡 例

危険度	大 ← 危険度 → 小						
	危険度7	危険度6	危険度5	危険度4	危険度3	危険度2	危険度1
建物全壊率	30%以上	20～30%	10～20%	7～10%	5～7%	3～5%	3%未満

※財団法人日本建築防災協会から「誰でもできるわが家の耐震診断」が提供されています。
どなたでも手軽に木造の耐震診断を行うことができます。
(<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/wagayare/wagayare.pdf>)

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平21関複、第147号）」